

湘南藤沢学会 「研究助成基金」 報告書

慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 スポーツマネジメント専修
後期博士課程 1年 福井奨悟

活動の名称

高齢大動脈弁狭窄症患者におけるアウトカムに関わる因子

(第 32 回日本静脈経腸栄養学会学術集会、第 81 回日本循環器学会学術集会での口述発表)

開催日時

第 32 回日本静脈経腸栄養学会学術集会；2017 年 2 月 23 日、24 日

第 81 回日本循環器学会学術集会；2017 年 3 月 17 日-19 日

開催場所

第 32 回日本静脈経腸栄養学会学術集会；岡山シンフォニーホール 他

第 81 回日本循環器学会学術集会；石川県立音楽堂 他

活動の背景

○第 32 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

大動脈弁狭窄症 (AS, aortic stenosis) に対する治療として、経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI, transcatheter aortic valve implantation) が新たに治療の選択肢として確立されてきた。TAVI は高齢で虚弱な患者も治療適応となり、術前の低栄養は術後の離床や ADL などの問題となる。高齢かつ重症 AS 患者における栄養状態や他の因子との関連を調べた報告は少ない。

○第 81 回日本循環器学会学術集会

TAVI 術後 1 年以内の生命予後に関連する術前の因子を後方視的に検討した。

活動の目的

栄養、循環器分野に関する主要な学会での発表を通じて、多くの研究者から助言を頂き、情報交換を行うこと。

活動の成果

○第 32 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

対象は、ASにて当院でTAVIを予定していた待機患者 300名(平均年齢 83.8 ± 0.5 歳、女性 209名)とした。栄養状態(MNA-SF, Mini Nutritional Assessment-Short Form)、心機能および大動脈弁の機能、運動機能、ADL、血清データ、既往歴を評価した。MNA-SFにて7点以下を低栄養と定義した。従属変数をMNA-SFとし、単変量解析にて有意な因子を用いたロジスティック回帰分析を用いて検討した。MNA-SFの結果は 10.9 ± 2.5 であり、34例(11.3%)が低栄養であった。単変量解析の結果、性別(女性)、NYHA class、LVEF、BNP、脚伸展筋力、SPPB、FAI、アルブミン、心不全の既往が

ロジスティック回帰分析に投入された。LVEF(OR; 0.955; 95%CI 0.928-0.983; $p<0.01$)、FAI(OR; 0.907; 95%CI 0.863-0.954; $p<0.01$)、性別(OR; 4.257; 95%CI 1.333-12.593; $p<0.05$)が採択された。

○第 81 回日本循環器学会学術集会

平成 26 年 6 月から平成 27 年 7 月までに当院で TAVI (経大腿動脈アプローチ 110 名、経心尖アプローチ 15 名) を施行した連続症例 125 名 (女性 86 名、平均年齢 84.5 ± 4.5 歳) を解析対象とした。重度認知機能低下にて術前評価が困難であった症例は除外した。年齢、性別、BMI、既往歴などの基本情報に加えて、心機能評価、運動機能、手段的 ADL (FAI, Frenchay Activities Index)、認知機能、栄養状態を評価した。従属変数を術後 1 年間以内の死亡の有無とし、単ロジスティック回帰分析を施行した。さらに、単回帰分析にて統計学的に有意な関連を示した項目 ($p<0.05$) を独立変数とした多重ロジスティック回帰分析 (変数増加法) を施行した。TAVI 術後一年以内の死亡例は 13 名 (10.4%) であった。単ロジスティック回帰分析の結果、FAI($p<0.01$)、MNA-SF($p<0.05$)が有意であった。多重ロジスティック回帰分析の結果、FAI(OR; 0.892, 95%CI; 0.828-0.961, $p<0.01$)が採択された。

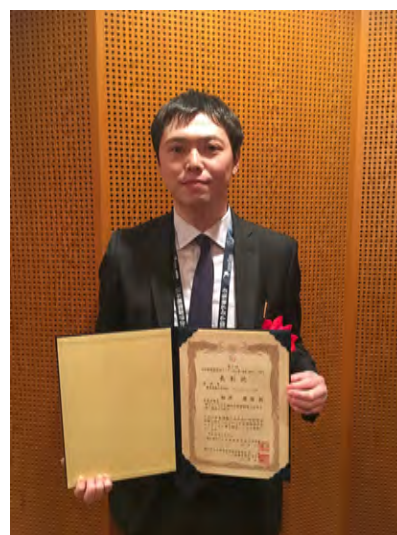


写真 1 第 81 回日本循環器学会学術集会での授賞式の様子

両学会ともに参加者が 10,000 人を超える大規模な学会であり、今回の口述発表にて解析方法など活発な質疑応答となり、多くの意見を頂くことができた。また、平均年齢が 84 歳の高齢者を対象とするため、術前後のリハビリテーションについての介入方法に関するディスカッションがされた。

成果の活用

両研究ともに国際学術誌への投稿を予定している。学会中に頂いた意見を踏まえ、論文を作成していく。また、第 81 回日本循環器学会学術集会での発表はコメディカル賞奨励賞を受賞した (写真 1)。

ご支援、ご指導頂いた湘南藤沢学会や各先生に御礼申し上げます。